

臨床薬理学特論

Clinical Pharmacology

2 単位 隔年 (前期)

滝口 祥令(授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻, 山崎 尚志・准教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 個々の患者に対する安全で有効な合理的薬物治療を支援し、医薬品の適正使用を支えるために必要な実践的知識を身につける。

【授業概要】 医薬品開発および医薬品の適正使用に役立つ薬剤の有効性と安全性の予測評価理論と、薬効変動に影響を及ぼす生体側因子を考慮した医薬品適正使用へのアプローチについて、その考え方と応用を解説する。

【履修上の注意】 e-learning 化していない

【授業計画】

1. PK パラメーターの活用法 (1) (担当者: 滝口祥令)
2. PK パラメーターの活用法 (2) (担当者: 滝口祥令)
3. PK/PD モデルによる薬効予測 (1) (担当者: 滝口祥令)
4. PK/PD モデルによる薬効予測 (2) (担当者: 滝口祥令)
5. アニマルスケールアップ法による薬効予測 (1) (担当者: 滝口祥令)
6. アニマルスケールアップ法による薬効予測 (2) (担当者: 滝口祥令)
7. 時間薬物治療学と個別化治療 (担当者: 滝口祥令)
8. 薬理遺伝学と個別化治療 (担当者: 滝口祥令)
9. 薬物療法の EBM 実践 (担当者: 滝口祥令)
10. 臨床試験プロトコール作成 (担当者: 滝口祥令)
11. 薬物治療効果を左右する生体因子 (1) 酵素 (担当者: 山崎尚志)
12. 薬物治療効果を左右する生体因子 (2) 受容体 (担当者: 山崎尚志)
13. 薬物治療効果を左右する生体因子 (3) ホルモン (担当者: 山崎尚志)
14. 薬物治療効果を左右する生体因子 (4) 生活習慣 (担当者: 山崎尚志)
15. 薬物治療効果を左右する生体因子 (5) 性差・種差 (担当者: 山崎尚志)

【成績評価】 レポート及び受講態度により総合的に評価する。

【教科書】 資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217083>

【連絡先】

- ⇒ 滝口 (088-633-7466, takiguti@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 講義開講日の12:00-13:00)
- ⇒ 山崎 (088-633-9516, yamazaki@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 講義開講日の12:00-13:00)

【備考】 平成 24 年度開講